

IDDNewsletter.....1

2021 January



特集

地域性とデザイン ～北海道と北欧の親和性～

北海道は、その気候や自然環境、ライフスタイルなどから、北欧との共通点をしばしば指摘されることがあります。今回は、北欧のデザインと北海道のデザインとの共通点や親和性について考えてみたいと思います。

地域性とデザイン

～北海道と北欧の親和性～

北海道は、その気候や自然環境、ライフスタイルなどから、北欧との共通点をしばしば指摘されることがあります。今回は、北欧のデザインと北海道のデザインとの共通点や親和性について考えてみたいと思います。

北海道は、その気候や自然環境、ライフスタイルなどから、北欧との共通点が多いと言われることがあります。高緯度で寒冷な地域であり、夏が短く冬が長い、自然豊かで人口密度が低い、ウィンタースポーツが盛んである、長く厳しい冬は屋内で過ごす時間が長くなる等、そのライフスタイルは確かに北海道とよく似ています。

北欧では、屋内で心地良く過ごせるよう家具やインテリア、雑貨のデザインが発達したと言われていますが、飽きのこないシンプルさと機能的で長く愛用できる実用性を兼ね備えたデザインは、日本でもとても人気があります。

デザインにおいても、北欧と北海道には親和性があるようで、例えば、JR 北海道では、かつてデンマーク国鉄とデザイン提携して電車の車内インテリアや駅の内外装に北欧テイストのデザインを実施したことがありました。それは違和感なく北海道の風土になじみ、現在に至るまで使われているものもあります。

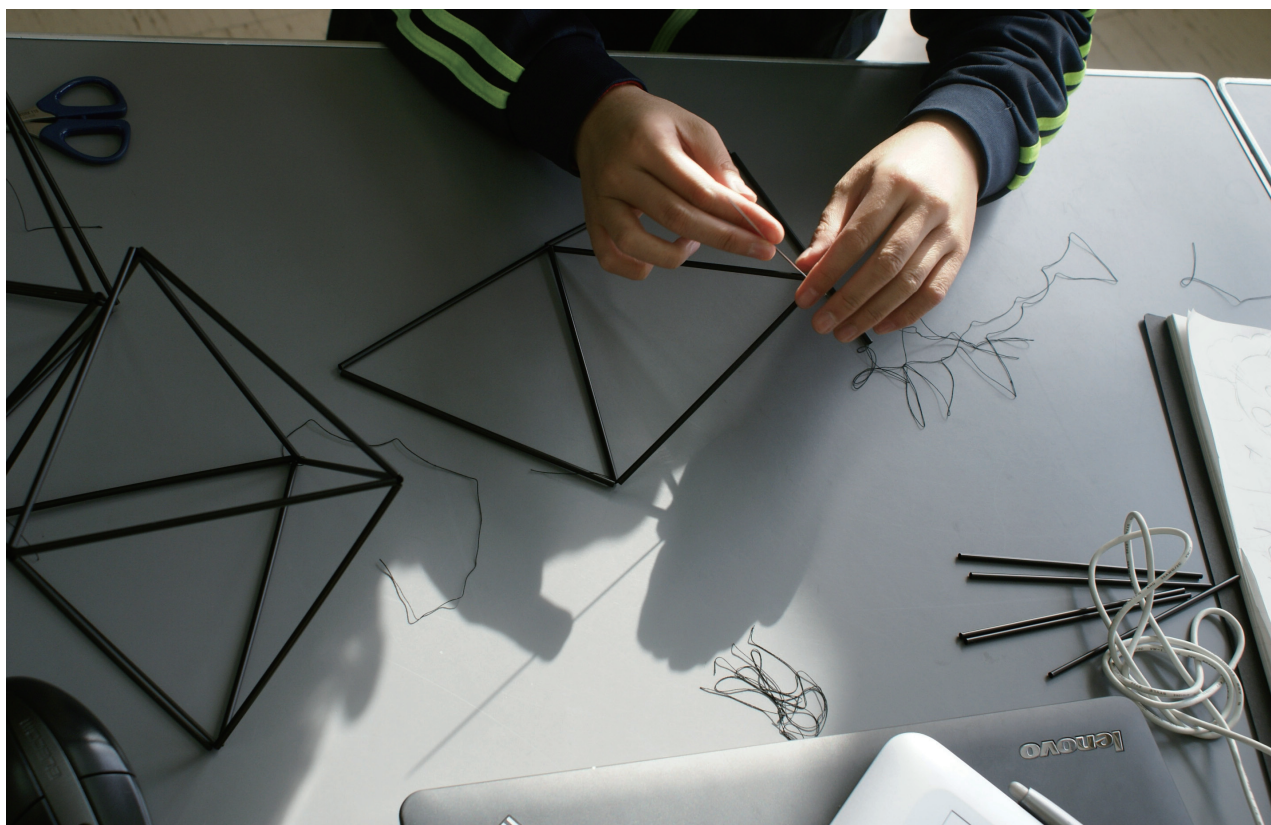
また、北海道のほぼ中心に位置する旭川市は、家具が有名ですが、シンプルで機能的なデザインであるという特徴は北

欧デザインと共通するものです。

専攻科情報デザイン科では、科目「造形デザイン」の授業で「ヒンメリ」の制作に取り組みました。「ヒンメリ」とは、フィンランドで「ヨウル」といわれるお祭りのために昔から作られている装飾品で、別名「光のモビール」とも言われるものです。「ヨウル」は太陽神の誕生祭や農耕神への収穫祭のことで、古くから自然を崇拝し、精霊信仰に基づいた生活を送っていたフィンランド人は、12月下旬の冬至の頃には必ずこのお祭りを行っていました。

フィンランドでは、ヒンメリは手近にあった藁で作られていたようです。今回の授業でも最初は藁を使うことも考えましたが、手に入りにくいこともあり、いろいろ試してみた結果、黒くて細いストローを使ってみることにしました。

ストローをカットし、糸を通し、平面を形作った後、平面と点を一定の方式でつなぐことによって最後に立体的な造形物ができあがります。一つ一つは、比較的簡単で小さな造形物ですが、これらを組み合わせることによって大きな造形物にすることもできますし、配置や組み合わせ方によっていろ



いろな表情を見せてくれます。

実際に作ってみると、無機的で構造的ではありますが、北海道の風土とよくマッチしていて、どこことなく北方系の文化を感じさせます。

今回制作したヒンメリは、2月25日から小樽市美術館で開催される修了作品展で御覧いただくことができます。

IDDN



Contents

特集 2-3 地域性とデザイン ～北海道と北欧の親和性～

北海道は、その気候や自然環境、ライフスタイルなどから、北欧との共通点をしばしば指摘されることがあります。今回は、北欧のデザインと北海道のデザインとの共通点や親和性について考えてみたいと思います。

Welcome to Information Design Department!!

令和3年度の 入学生を募集しています！

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科では、令和3年度入学生を募集しています。1次募集は終了いたしました。現在2次募集について受け付けています。聴覚障害のある方で、高等学校や特別支援学校高等部を卒業等していれば、入学できます。それ以外の年齢制限や条件はありません。道外の方でも入学できます。昼食は給食となっております(注1)、希望があれば、寄宿舎に入ることもできます(注2)。

※入学条件の詳細は、下記アドレス専攻科情報デザイン科 Web ページ内の「入学者募集」をご覧ください。

専攻科情報デザイン科 Web ページ

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=228

入学者募集について

http://www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp/?page_id=223

入学に関するお問い合わせ

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624



専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「標準教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くなからず、材料費等も非常に低コスト(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTP や Web に係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Web であれば、HTML5 と CSS3 を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトや center タグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受たり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量でできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

注1：1食330円(昼食)で、就学奨励費の対象となっています。 注2：学年末・学年始休業日、夏季・冬季休業日は閉舎します。 注3：現在、学校で材料費等は徴収していません。授業毎に使用する材料等は、すべて学生自身で準備し、学校に持参していただきます。 注4：特別支援学校に在籍する生徒・学生への補助制度で、帰省や通学にかかる交通費、給食費等が対象となり、所得状況に応じて額は変わります。 注5：普通校には通常ない領域で、障がいそのものの改善に焦点を当てます。具体的には、弊校の場合、聞こえや社会生活、コミュニケーションに係わる内容となり、学校の教育活動全般をとおして行われます。 注6：医療や教育分野では聴力を基準に考えることが多いですが、聴覚障がい者の実際の社会での有り様においては、日本手話を母語とする「ろう者」と聞こえづらけれども日本語を母語とする「難聴者・中途失聴者」で分かれます。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

January 2021 1

IDDNewsletter

January 2021

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。